

# サケ稚魚の放流追跡調査

吉尾二郎

ふ化飼育したサケ稚魚の放流追跡調査を行ったので、概要を報告する。

昭和57年3月10日に、神戸川の図1に示す地点で放流を行った。河口からの距離は約10 Kmであった。放流時の水温は8.0℃、COD 0.5 ppm、SS 7.1 ppmであった。河口の水温8.8℃、沿岸11.0℃であった。3月12日に図1に示す地点で投網による調査を行ったが、放流魚は放流地点より下流の神戸堰でのみ採捕された。神戸堰での採捕も、堰堤下の流れのゆるやかな所や、水の落込みに限られ、水流の強い所では採捕されなかった。

採捕時の体長は表1に示したが、放流時(体長6 cm、体重2.2 g)より幾分小型の個体が採捕され、全個体とも平均で体重の33%に相当する水生昆虫を捕食していた。3月16日の調査は、前回採捕のあった神戸堰と河口で行ったが、前回と同様に、神戸堰でのみ採捕があり、体重、体長とも増加していた。3月23日の調査では、計15尾が神戸堰で採捕され、全個体ともスモルトであった。3月29日の調査では、4尾が採捕され、体重で放流時の2倍近くまで成長していた。今回は、採捕尾数も少なく、大半の個体は下流に下ったか、あるいは降海したものと推察された。また、同地点で天然の銀化ヤマメが2尾捕獲され、天然のサクラマスの降海型と推察された。4月12日の調査では、サケ稚魚の採捕はなく、稚アユが数尾とれたにすぎなかった。

放流時期の選定については、沿岸水温が15℃になるまでが適当と考えられ、それ以前に河川で体力をつける必要があるとされている。今年、沿岸水温が15℃以上になったのは、近接の恵曇湾で4月30日以降であった。

表1. 放流追跡調査結果

S 57. 3/10 ~ 4/12

月日	項目 採捕 尾数 St	平均 体長 mm	平均 体重 g	肥満 度	備 考	
3/10	放流 48,000尾	60.0	2.27	1.05	ヒレカット5,000尾	
	1	0				
	2	0				
3/12	3	42	56.63	1.88	1.04	獲れすぎのため投網4回 で中止 水温8.5℃
	4	0				水温8.8℃(河川) 沿岸11.0℃
3/16	3	7	65.0	2.90	1.05	水温12.0℃
	4	0				水温13.5℃
3/23	3	15	64.5	2.73	1.02	水温11.5℃、スモルト ヒレカット1尾
3/29	3	4	76.25	4.16	1.07	水温11.2℃、スモルト 銀化ヤマメ2尾(18cm BL)
	4	0				水温12.5℃(河川) 沿岸13.4℃
4/12	3	0				稚アユ数尾 水温10.7℃

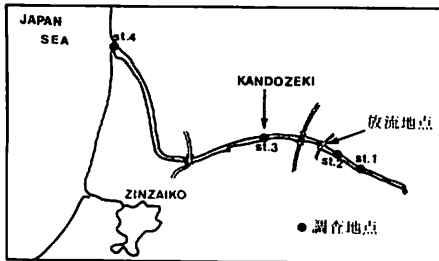


図1. 放流調査地点